

山形大学 YAMAGATA UNIVERSITY ALUMNI ASSOCIATION 校友会会報

15
MARCH 2020



令和元年度校友会大学院学生表彰

(校友会会長賞)

14名の大学院生が受賞しました

Contents

校友会 NEWS 2

ダンスin農場フェスティバルを開催
令和元年度山形大学卒業生等首都圏ネットワーク総会を開催
「科学で東北を盛り上げ隊」を実施
留学体験記

令和元年度校友会支援・主体事業の紹介 ... 4

事業紹介と参加学生さんからのコメント

事業に参加した学生さんからのメッセージ 6

INFORMATION 8

校友会学生幹事主催「山形大学フォトコンテスト2019」



最優秀賞 工学部3年富樫航さん

校友会とは...

校友会は、山形大学の発展に寄与するため、学生の学業及び課外活動等への助成並びに全学的なキャンパス間の交流活動に支援を行うとともに、会員相互の親交を図り、「山形大学コミュニティ」の醸成・強化に資することを目的としております。

| 校友会 | NEWS |

1 ダンス in 農場フェスティバルを開催



参加者の記念撮影

令和元年10月5日(土)、農学部附属やまがたフィールド科学センターにて、「ダンス in 農場フェスティバル」を開催しました。

今回が初めての企画でしたが、農学部教職員にダンスバトルの経験者がいなかったことから、学生ダンスサークルに協力を求め、他キャンパス等にも参加募集を行った結果、12名(小白川7名、米沢1名、一般参加者4名)が参加し、学生等交流の素晴らしい機会となりました。

当日は屋外にステージを設け、農業用ビニールハウス内でも行えるよう準備をしました。幸い、曇天時々小雨でトーナメント方式のダンスバトルを滞りなく行うことができました。

今回は、「山形大学農場フェスティバル」と同時開催としたため、フェスティバルに訪れた方たちも興味をもって観覧していただいた一方で、ダンス出場者も農場フェスティバルを楽しんでいただくことができました。

小中学校でダンス授業を行い、高校生のダンスイベントが注目を浴びている昨今、農学部附属やまがたフィールド科学センターの特長を活かし、センターならではの学生等交流の場として、今後も継続して種々企画していくこととしております。

農学部附属やまがたフィールド科学センター担当



フェスティバルの様子

2 令和元年度山形大学卒業生等首都圏ネットワーク総会を開催



総会の様子

令和元年12月14日(土)、東京都港区の田町グランパークにおいて、第7回「山形大学卒業生等首都圏ネットワーク総会」が開催されました。今年の総会には、首都圏に居住又は勤務されている70名の卒業生、大学関係者などが出席しました。

総会では、最初に対象征雄首都圏ネットワーク会長(米沢工業会)と大場好弘山形大学理事・副学長の挨拶と出席者の紹介が行われました。その後議題について話し合わせ、今後の活動予定報告や、若手OB・OGを増やす必要性についてなどが述べられました。

総会後には、卒業生のための特別講演会が開催されました。今回は、山形大学地域教育文化学部長の大森桂教授より、「自身の健康と社会のより良い未来のために、フードリテラシーを修得する」と題し講演をいただきました。そもそも食事の役割とは何かという話題から始まり、フードリテラシーの大切さについて講義していただきました。大森先生が実際に海外で見てきた経験をもとに、日本と海外の食文化の違いや、フードリテラシーに対する取り組みについての話など非常に興味深い内容でした。

講演会終了後には、出席者による懇親会がスタート。年齢や卒業年度の枠を超えたこの会は大いに盛り上がりしました。出席者たちは、当時の思い出や近況を語り合っていました。また今回は、YAS首都圏アンサンブルの皆さんの演奏がありました。素晴らしい演奏に対し参加者で手拍子を送り、会はずまず一体感に満ちていきました。

最後に、大沼一男顧問(前校友会事務局長)の「花笠締め」でめでたくお開きとなりました。

今回私は初めて参加させていただきました。様々な年代の参加者が入り交じる会で、半世紀近く前に卒業された先輩方も多くいました。この会では浮いてしまうほど若年の私でしたが、温かく受け入れていただき、多くの先輩方とお話をする事ができました。

しかし、このような素晴らしい会ですが、私は参加するまでこの会の存在を知りませんでした。参加者も年配の方の割合が高く、世代交代も問題となっていました。今後どのようにして知名度を上げ、若い参加者を増やしていくかが課題です。参加してみると温かい会ですが、若手が一人で参加するにはまだまだ敷居が高いように感じます。実際私も、学生幹事としての参加でなければ参加を躊躇していたことでしょう。このような繋がりを知らないことを非常にもったいなく感じました。

卒業後は、逆に私が山形大学卒業生等首都圏ネットワーク総会の素晴らしさを伝えていけたらと考えています。東京で働く部活の先輩や同期を誘い、来年またOBとして戻ってきたいと思います!

校友会学生幹事 工学部4年 大武貴幸



大泉征雄会長

大場理事・副学長

令和元年度に実施した事業の中から、特徴ある4つの事業を紹介します。

3 「科学で東北を盛り上げ隊」を実施



科学で東北を盛り上げ隊@石巻

事業の実施状況

1) 東日本大震災復興支援事業として、被災地における科学体験イベントを実施しました。

①サイエンスフェスティバル in 亶理町 (8月11日宮城県亶理町中央公民館)に参加。②「科学で東北を盛り上げ隊! @石巻」(11月24日宮城県石巻市遊楽館)の企画運営に参加し実験ブースを開設。

2) 県内外のイベント等に参加して、科学体験教室を実施しました。

①2019 青少年のための科学の祭典 in 山形 (7月28日電城セントラル)

②夏だ! 科学体験教室 (8月10日エスモール (鶴岡市))

③日本一の芋煮会フェスティバル (9月15日馬見ヶ崎河川敷)

④科学まつり in 鶴岡 (11月1日エスモール (鶴岡市)) 等多数

3) 山形大学 SCITA センター 第3回サイエンスカフェ (9月7日山形大学小白川キャンパス)を実施しました。

4) 「第19回全国科学教育ボランティア研究大会 in 大阪」(11月30日・12月1日大阪教育大学天王寺キャンパスで開催)に SCITA センター学生スタッフ2名および栗山恭直教授が参加し日ごろの活動等について発表しました。

事業の効果

1. この事業の主目的である子どもたちに科学の楽しさを伝えるボランティア活動の成果は確実に上がってきています。実施したイベントの参加者数は今年度3,100名以上の方に参加いただきました。来年度以降は今年度新たに実施したイベントをブラッシュアップして来場者をさらに満足させるための方策や新たな実験手法の開発を行っています。

2. 東日本大震災の被災地であり、SCITA センターのイベントを実施している石巻市・亶理町では8年たった今でも復興の道はまだ遠く、子どもたちに笑顔を届けるための一つの手段として科学の楽しさを伝えるイベントは必要とされています。終了後のアンケートでも今年も来てくれてありがとうや、また来てほしいとのリピーターの意見が多数寄せられており、本事業も定着し、継続する価値を見出しました。学生スタッフもボランティアで科学の楽しさを伝えることだけでなく自身のコミュニケーション能力を培うことができ、今後のキャリアアップに繋がることは間違いありません。さらには、以前このイベントに参加協力してくれた石巻の高校生が、本学に入学し、学生スタッフとして活動するなど副次的な効果も出てきています。

SCITA センター事務局担当



夏だ! 科学体験教室@鶴岡市エスモール



サイエンスカフェ@山形大学小白川キャンパス

4 留学体験記



お世話になったみなさま

人文社会科学部2年GSコース 國井 修人

留学先: フランス アンジェ大学

留学期間: 2019年8月~2020年1月

みなさんこんにちは。昨年、フランスのアンジェ大学に語学留学を行っていた人文社会科学部GSコース2年國井修人です。この留学を通し私は新たな文化や人々に会い、決して忘れることのできない思い出となりました。今回はこの留学経験を元に留学体験記を書きたいと思います。現在、留学を考えている人たちへの参考になれば幸いです。

私は1年生の時にフランス語を第二言語として履修していました。発音がほかの言語に比べて独特であるところに魅力を感じ、仏検の資格を取るなど熱心に勉強をしていました。私は将来、通訳や観光業など外国語を活かした職業に就きたいと考えており、実践的な言語能力の向上が必要だと分かりました。フランス語の先生や支援担当の方々に留学の意思を伝えてからはこれまでの日常が一変し、語学の猛勉強に加え出国の準備もあったので毎日忙しかったのを覚えています。その中でも無事に準備を終えることができ、出国することができました。フランス留学生活の始まりです。

出国から到着まで順調に進むことができ、楽しい留学生活の始まりかと思われました。しかし、留学はそう簡単に行くものではありません。一番の問題はやはり言語です。ネイティブのフランス語を聞いた途端、焦りと緊張感が走り、言っていることをほとんど理解できませんでした。幸いにもフランスでは英語が通じますが英語を話すのは私がわからない時だけであり、フランスにいる以上フランス語でやりとりするのが基本でした。いかに学習不足であるかを痛感した瞬間です。早く日本に帰りたい、最後までやり切れる自信がないと落ち込むのが日課でした。

しかし、私は留学を止める決断はできませんでした。周りにはいつも私をサポートしてくれる留学生や先生がいたからです。フランス語がダメな時は英語で教えてくれたりそこから発音や表現を共に学んだりしました。授業以外でも食堂や図書館で彼らと過ごしたり、休日は中心街で買い物したりなど非常に充実した時間を過ごすことができました。そんな彼らとの楽しい時間も終わりが訪れます。帰国することを恨むように彼らとの別れが恋しくなる瞬間でした。

私はこの留学でかけがえのない経験をしました。今後は私の将来の目標である旅行会社に就職するために資格取得やネイティブと会話することを通して、自分の言語能力の向上に努めたいと思います。最後に、私の留学をサポートしてくれた家族、先生方、留学支援担当の方々、授業やレポートで忙しい中連絡を取り合ってくれた友人達にはとても感謝しています。本当にありがとうございました!

校友会支援・主体事業の紹介

修学支援事業

- 校友会推薦図書コーナー
「後輩には是非、こんな本を読ませたい!」
- 山形美術館を活用した学生の学習支援事業
- 山形大学校友会大学院学生表彰制度

◎「英語合宿」

7月に協同の杜 JA 研修所で行われた学生、外国人留学生等と教員による、英語の授業やグループワーク、発表を行うプログラムで、多くの文化・語学について学ぶことができました。



留学生や、他学部の学生と交流できる機会をいただいたこと大変感謝しています。

グローバル化支援事業

- 博士課程学生研究発表奨励事業
- 大学間交流協定大学への短期派遣留学生
校友会支援事業

◎「新興国学生大使派遣プログラム」

今回は18名の学生を3カ国に派遣しました。現地では「山形大学日本語教室」にて、現地学生に日本語や日本文化について紹介する活動を中心に交流活動を行いコミュニケーション能力や異文化に対する相互理解や臨機応変に対応する力を養成しました。



海外渡航に不安や緊張があったが、勇気を持って挑戦できた。これからは迷っていたことにもどんどん挑戦していきたい。

課外活動支援事業

- 各キャンパス大学祭への支援
- 山形大学・米沢栄養大学・米沢女子短期大学
雪合戦大会
- 公認サークルへの支援
- ダンスin農場フェスティバル

◎「ビーチサッカー大会 in 庄内」

6月に発生した山形県沖地震の余震等が心配されたことから、今年度は種目をフットサルに変更し、10月15日に9チーム100名の参加で鶴岡キャンパス体育館で開催しました。



企画・準備から片付けまで積極的に運営に参加し、大会を運営する責任感と連帯感をより一層感じることができました。

令和元年度に実施した校友会支援及び校友会主体事業の一部を紹介します。

就職活動支援事業



OB・OGから学生目線で企業や仕事について説明していただけたことや複数の企業・業界を一度に学べたことがよかった。

- 障がい学生に特化した支援
- 合同企業説明会参加学生への就活応援セット提供と卒業後の校友会支援の周知
- 地域の未来を担う公務員志望学生に特化した早期自己開発キャリア支援
- 学生によるキャリアCaféの運営

◎「本学OB・OGから学ぶ業界・仕事研究セミナー」

11月30日「OB・OGとの懇談会～業界を知る～」には33企業から51名のOB・OGの方を講師として招き、320名の学生と座談会を開催しました。

大学・社会貢献活動支援事業

- オペラの教育機能を活用した「附属校との協働」及び「高大連携事業」の推進
- 子どものまち・いしのまき復興支援事業
- 学生による地域の課題解決支援プログラム
- 科学で東北を盛り上げ隊

◎「山大生による山形大学のための情報発信プロジェクト」

学生生活レポート」の連載継続や、山形北高等学校や、オープンキャンパス・ジュニアキャンパス、山形大学留学生説明会でキャンパスライフの紹介や、個別相談会を実施しました。



受験生の皆さん、大学は高校と比べて自由で新しいことに挑戦できます。受験勉強はとても大変ですが、振り返るといい思い出だと感じることができると思います。お友達と励まし合いながら頑張ってください。

会員相互の交流支援事業



卒業後は首都圏ネットワーク総会の素晴らしさを伝えていたらと考えています。東京で働く部活の先輩や同期を誘い、来年はOBとして戻ってきたいと思っています。

- 卒業生の「人材バンク登録事業」を活用した学生支援事業
 - 校友会会員となった新入生への入会記念品の贈呈
 - 若手卒業生の組織化支援
 - 校友会「学生幹事」による校友会PRと自主的な活動支援
- ### ◎「卒業生と大学・学生との連携推進事業」

各学部同窓会の理解と協力を得るため、支部総会等へ出席し、校友会活動を紹介したほか、12月14日には「山形大学卒業生等首都圏ネットワーク総会」(70名参加)を東京・田町で開催しました。

事業に参加した学生さんからのメッセージ

「高校生と大学生の協働活動」に参加しました！

農学部食料生命環境学科 3年
太田 実里さん

山形県内出身の大学生と高校生で、大きく2つの協働活動を行いました。1つ目は、山形大学での生活や学びについて高校生が大学生に取材をして、先輩新聞を作成し発表しました。2つ目は、大学生と高校生のグループワークとして、「残りがなくなる山形にするには」、「県外の人に住みたくなる山形にするには」について考え、ポスターを作り、大学生が発表しました。

「大学とはどういうところなんだろう？大学生と話してみたい！」という理由から参加した高校生が多いように感じました。その中で、大学生にキャンパスライフや、私生活、どんなことができるのかといったことを取材しまとめていくことで、高校生それぞれが大学生になったらこういう風になりたい、〇〇に挑戦したいと具体的にイメージが膨らんだのではないかと思います。今回参加した大学生は12名だったが、一人ひとりキャンパスライフや私生活が異なるため、その点も参考になるのではないかと思います。個人的に、大学に入ることを目的にするのではなく手段として、大学に入学してから何がしたいのか、何になりたいのか考えるこ



グループワークの様子

戦したいと具体的にイメージが膨らんだのではないかと思います。今回参加した大学生は12名だったが、一人ひとりキャンパスライフや私生活が異なる

ため、その点も参考になるのではないかと思います。個人的に、大学に入ることを目的にするのではなく手段として、大学に入学してから何がしたいのか、何になりたいのか考えるこ



ポスター発表の様子

との重要性を高校生に伝えることができました。これは私が大学に入って、ぼーっと生活している人が徐々に増えていることに疑問を持ったことから、有意義に大学生生活を送ってもらうため、これだけは高校生に伝えたかったことです。

高校生とのグループワークでは、柔軟でユニークなアイデアがたくさんあちこちで飛び交っており、実際に実現できそうなもの、実現してみたいと思うアイデアが多くありました。今回の活動を機に山形県の良さを改めて実感することができました。ぜひまたこのような活動に参加したいと思います。

「山 大生の活動支援プロジェクト(Ⅲ)」！活動成果発表会を開催しました

校友会学生幹事活動支援プロジェクト担当
理学部物質生命化学科 4年
山口 芽衣さん

2月19日(水)、小白川キャンパス基盤教育1号館111教室にて「山大生の活動支援プロジェクト(Ⅲ)！成果発表会」を開催しました。以下の4団体が、校友会からの支援で実施した活動の成果と今後の課題を発表しました。

①山形大学 SCITA センター学生スタッフ

「スライムマスター Jr. 特別教室2019」

②IVY youth

「カンボジアの子供たちに未来を届けたい」

③お化け屋敷運営サークル

「いざ出陣！称号獲得を目指して」

④花笠サークル 四面楚歌

「花笠を山形を世界にPR」

発表終了後には会場内の全員で「令和元年度ベスト活動大賞」の投票をおこない、お化け屋敷運営サークルが選ばれました。お化け屋敷運営サークルには表彰状と副賞が大場好弘理事・副学長(校友会担当)から授与されました。また他の3団体にも奨励賞が贈られ



活動成果発表会に参加された皆さん

ました。その後大場理事からの講評と、お化け屋敷運営サークル代表の高原好さん(人文学部4年)からのコメントをいただきました。

「山大生の活動支援プロジェクト！」は一昨年から3年連続で実施していますが、今年は特に熱意が強く、チャレンジ精神にあふれた団体がそろいました。どの団体も、身近な地域や世界の人々を笑顔にするための準備や努力だけでなく、自分たちが楽しみながら活動できるように工夫していることが発表から伝わってきました。今回の成果発表会を通して、普段とは違う活動にチャレンジした団体や、いつもの活動にプラスαすることでより良い活動ができたという団体が多く、校友会からの支援が意味のあるものになったと感じました。ぜひ来年度以降も「山大生の活動支援プロジェクト！」を継続して実施し、熱意ある山大生の活動を支援していきたいです。



ベスト活動大賞のお化け屋敷運営サークル



花笠サークル「四面楚歌」の発表

第53回山形大学八峰祭に学生幹事が出店しました！

校友会学生幹事八峰祭担当

医学部看護学科 1年 奥野ひとみさん
医学部看護学科 1年 尾形 幸音さん

今年の出店は1年生が中心となって進めたため前年度の八峰祭についてあまり分からないまま準備を進めていました。当日もタイムテーブルとは違う流れで、行き当たりばったりで進めてしまいました。しかし最終的には美味しい芋煮を作り売り切ることができたので良かったと思います。

また途中でテレビの取材がありインタビューを受けました。テレビに出たことで、校友会についてたくさんの人達に知って頂く良い機会になったのではないかと思います。これから今年の出店の改善点をまとめ、来年の出店がより良いものとなるようにしていきたいです。



校友会のW(ダブル)芋煮



令和元年度山大学生×若手卒業生交流会を開催しました

校友会学生幹事若手卒業生との交流会担当

医学部看護学科 1年 奥野ひとみさん
工学部情報エレクトロニクス学科 1年 豊田 彩人さん

令和2年2月23日(日)、山形大学小白川キャンパス基盤教育1号館国際交流ラウンジ及び学生多目的室において「山大学生×若手卒業生交流会」を開催しました。本年度が初開催でしたが、20名を超える在校生、若手卒業生が参加しました。山形市内に限らず首都圏近郊に居住されている卒業生の参加も賜りました。

交流会では、伊藤大貴さん(2016年工学部卒)が司会を務め、最初に、校友会学生幹事の取り組みや若手卒業生の会についての紹介が行われました。その後、若手卒業生の皆様に自己紹介をしていただき座談会に入りました。



伊藤大貴さんの説明

座談会は卒業生と学生が本音で話し合える場でした。卒業生からは、勤務している会社を選んだきっかけや転職の決め手などのお話をいただきました。学生は、卒業後の進路や就活で大切なことなどを聞いていました。

座談会終了後は、出席者による懇親会がスタートしました。座談会で聞けなかったことや卒業生同士の思い出話に花が咲きました。

最後に、今回の企画に携わっていただいた伊藤大貴さんよりお言葉をいただき、今回の交流会は終了致しました。

今回、若手卒業生との交流会に参加させていただきとても勉強

強になりました。普段の生活では、どうしても自分と同じ学部の人達と話すことが多いため、違う学部の方々と集まって話をする機会がほとんどありませんでした。しかし、この交流会は人文、工、農学部など様々な学部の方が集まってお話をしてくださったことで自分の視野を広げる良い機会になったのではないかと感じました。また、今回参加した卒業生の皆さんは社会に出て働いている方々であったため学生とは違う、社会人の目線から私達の話聞いていただき、とてもためになりました。

このような素晴らしい会ですが、学生の参加者数が多いとは言えません。キャリアについて学ぶいい機会ですが、講義だけで満足している学生が多いように感じます。今後どのようにして活動の知名度を上げ、多くの学生を巻き込めるかが課題です。私自身参加してみると、卒業生の方々から話を聞くだけでなく、自分たちからも積極的に話すことができ、相互にコミュニケーションをとることができました。様々な人と繋がるきっかけ作りにもなるので、多くの学生に参加してもらいたいと感じました。

この会に校友会学生幹事として参加した経験は私たちにとっ



座談会の様子

て大きな糧となりました。関係者の皆様、本当にありがとうございました。来年もまた、このような会が開催された時はぜひ参加させていただきたいです。

山形大学大学歌

作詞：石先 麻美・難波 千鶴
作曲：大谷 靖夫
編曲：中村 康就

山形大学大学歌は、平成21年に創立60周年を記念し、歌詞の募集を行い、当時地域教育文化学部4年在学中の石先麻美さんと難波千鶴さんの作品が選ばれました。作曲は山形市出身の作曲家大谷靖夫氏に依頼し、平成22年3月に本学大学歌として制定されました。

※この事業は校友会の支援により実施されました。



大学歌
ダウンロードは
こちら

大学のホームページからも
ダウンロードができます。

1 春風に 希望をのせて
桜の光 仰ぎ見る
若葉の緑 きらめいて
力みなぎる 若き瞳
決意を胸に 手をつなぐ
我らが学び舎 山形大学

2 知を深く 真理を求め
語りあかそう 集い来て
星のまたたき 想い馳せ
学びを拓く 強き瞳
己を信じ 進みゆく
我らが学び舎 山形大学

3 はるかなる 未来を照らし
流れる川の 絶え間なく
日々を彩る 雪模様
次代を担う 明き瞳
夢を抱いて はばたこう
我らが学び舎 山形大学

山形大学学生歌「みどり樹に」

作詞：菅原 威
作曲：橋場 富蔵

山形大学学生歌「みどり樹に」は、昭和33年全寮々歌として現在でも永く歌い継がれている学生歌です。

宮下(旧姓・菅原)威さんの作詞、「歌いやすい旋律」をめざして作曲されたのは橋場富蔵さん。お二人とも旧教育学部の卒業生です。

※「山形大学大学歌」と学生歌「みどり樹に」は、YouTubeでもお聴きいただくことができます。

1 みどり樹に 風がながれるように
さわやかな 若人のうたごえ
遠く海を越えて
世界の果まで ひびくよ
われらの歌う 口唇に
友情の血潮は あふれる

2 大地から 草が萌えでるように
たくましい 若人の生命は
高く峯を越えて
世界の果まで のびゆく
われらの輝く ひとみには
平和のねがい みなぎる

3 大空に陽が 輝くように
かぎりない 若人の夢は
はるか雲を越えて
世界の果まで とどくよ
結んだ腕で 新しい
未来を築く われらよ

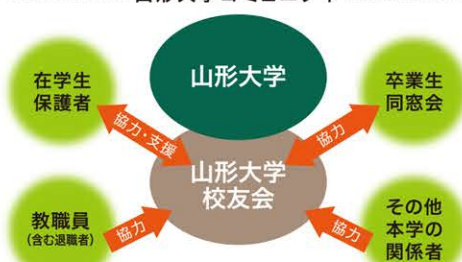
校友会への入会案内

山形大学校友会に未だ加入されていない
卒業生の皆さまへ(お願い)

校友会は、学生の修学、課外活動及び就職活動並びに全学的な交流活動の支援を行うと共に、会員相互の親交を図り「山形大学コミュニティ」の醸成や強化に資するために様々な事業を展開しています。具体的な事業は、会報に掲載しているとおりですが、これらの事業は、在学生、卒業生、役員、教職員及び本会趣旨賛同者の生涯会費(1万円)で実施しています。

ついては、多くの皆さまにご加入をお願い申し上げます。会員(除く入学時加入会員)の方には、定期的に校友会会報や大学の様々な広報誌を送付しています。

..... 山形大学コミュニティ



入会申込手続き: 払込取扱票に必要事項をご記入の上、『郵便為替』により生涯会費1万円をお振り込みください。(払込取扱票は、校友会事務局にありますので、ご連絡ください。)

入 会 日: 会費の納入により入会となります。

メルマガ発信のお知らせ及び
山形大学や学生への
応援メッセージ寄稿のお願い

- 校友会では、メールマガジン「みどり樹通信」を毎月配信し、山形大学や校友会に関する情報を提供しています。メールマガジンは、校友会ホームページ上から簡単に申し込みができます。
- 卒業生の皆さまからの寄稿を広く募集しています。山形大学や在学生への応援メッセージ、学生時代の思い出など何でも結構です。

メールマガジン

■山形大学校友会メールマガジン登録

「山形大学校友会メールマガジン」への登録を行います。
入力いただいた個人情報は、メールマガジンの配信のみに使用し、他の目的には使用いたしません。
山形大学校友会における個人情報の取扱いについては、「個人情報の取り扱いについて」をご確認ください。
上記内容について同意いただき、下の登録ボタンからメールマガジンの登録を行ってください。

同意して登録

※ご寄稿いただける場合は、校友会事務局までお知らせください。

編集後記

令和元年度もあと少しです。校友会支援事業は順調に進んでいますが、ここに来て、新型コロナウイルスで影響を受ける事業も出そうです。

来年度の支援事業募集も開始しました。在学生・卒業生等支援の事業申請をお待ちしています。

(事務局次長 鈴木 直克)

山形大学エンrollment・マネジメント部
山形大学校友会事務局

〒990-8560 山形市小白川町1丁目4-12

TEL:023 (628) 4867 FAX:023 (628) 4185

E-mail:ykouyu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

〈校友会ホームページ〉<https://www.yamagata-u.ac.jp/ykouyu/>



校友会HP



Twitter



Facebook



Instagram